

む さし 武蔵



十津川沿いから旧木馬道を車で駆け上がると、
視界が開けて桃源郷のような集落が現れます。
大字武蔵は十津川沿いの平瀬、山腹の武蔵尾、
一番上にある武蔵の三つの小字からなっています。

盆踊りが行われるのは小字武蔵にある旧武蔵小学校（現・村営教育資料館）の校庭です。雨天
の場合は旧保育所の木造のお堂で実施されます。

盆踊りは8月14日に行われます。13日に山を越えた字大野の盆踊りに武蔵の若者が訪れ、翌
日には逆に武蔵に客人が来る習慣でした。しかし、20世紀末に大野の盆踊りが途絶え、現在は
武蔵単独で行われています。

場所は校庭ですが、この時期の十津川は気圧が不安定となり、3～4年に一度は雨に見舞われ
て堂内で行われます。堂内は狭く、踊り手がひしめくように輪を作り、下駄の音が大きくビート
を打つので、かえって盛り上がり、念仏踊りの熱狂もかくやという雰囲気になります。

櫓は宝蔵庫の虫干しや道普請を行う7月末にたてられ、8月1日からならし（稽古）が始まります。
当日は夜8時から開始、11時すぎに国指定重要無形民俗文化財である大踊が演じられ、中入り
後に数番踊られて午前2時頃に終了、続いて櫓が解体されて解散となります。

レポートリーは37曲ありますが、実際に踊られるのは平均して20曲ほどです。必ず「ダンチヨネ」
から始まり、途中に「お杉くどき」など口説き系の踊りを挟みながら徐々に盛り上がりゆき
ます。中央の櫓の上に複数名の音頭取りがのぼり、踊り手は輪になって踊りますが、大踊の時
のみ太鼓を持った男性が横一列に並びます。大踊は隣接する小原、湯之原と同系統ですが、歌
詞の中に「なむあみだぶつ さあおどらいで」というものが武蔵のみに見られ、念仏踊りの系
譜を引いていることをうかがわせます。（中川）



武蔵

撮影：田花三巖



武蔵

撮影：野本 暉房



武蔵

撮影：中川眞